

Title	経営面からみた職場ストレスの検討課題 - 職場ストレスへのストレスナーおよび対処行動の影響について -
Sub Title	
Author	平田光子(Hirata, Mitsuko) 関本昌秀
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第871号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0871

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	平田 光子	主査	関本 昌秀
		副査	石田 英夫
			矢作 恒雄
所属	関本 昌秀 研究室		

経営面からみた職場ストレスの検討課題
－職場ストレスへのストレスャーおよび対処行動の影響について－

本研究の目的は、従業員にストレスをあたえている職場諸要因（職場ストレスャー）およびストレスを軽減する対処行動を解明し、さらにストレスの種類を解明することで、職場ストレスャー、対処行動およびストレス反応の関係を明確にし、企業がストレスマネジメントを立案・実施する際の一助とするものである。本研究の方法は、文献研究から理論モデルを構築し、これをもとに調査モデルを設定し実証研究を行った。調査対象者は、大手メーカー1者を選びその従業員事務系および技術系合計196名とした。分析方法として、まず因子分析を行い調査モデルを分析用に再構築した。次に二元配置分散分析を行い、ストレス反応の種類別にそれぞれ職場ストレスャーと対処行動の諸因子の中でストレス反応に影響を及ぼしているものを抽出した。併せて、ストレスャーがストレスを生起させる過程において対処行動がストレス反応を軽減させるという一般仮説の検証を行った。さらに重回帰分析により、職種別・職位別に各種ストレスに影響を与えているストレスャーおよび対処行動の影響力の強さを測った。本調査の結果から判明した主たる内容は、第一にストレス反応は4つの種類に分けることができ、それぞれが生起する要因が異なることであった。特に心理的ストレスは職場要因に影響される傾向が強いという結果を得た。第二は、ストレスに影響する職場要因は職種、職位でかなり異なるということであった。第三は、ストレスを軽減する対処行動は職種を問わず「積極的対処行動」が有効であるということであった。これらの結果から、経営への提言として、ストレスマネジメントを行う際、たいしょうとするストレス種類の明確化、職種別対応の必要性「積極的自力解決」行動の訓練促進、などを提言する。